



特集3

ひゅ
うま
ん
通信

ひとつの言語

「手話」

決して、
特別なものじゃない

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、フェースガードの着用や適切な距離を保つなどして、取材を行いました



岡田美恵さん
(59歳、吹田市)

受講した手話講習会をきっかけに手話を学ぶようになり、手話通訳者として活動

手話で人と話したことはありますか？「日常的に手話で話しています」「あいさつぐらいなら何とか」「子どもの頃に学校で習ったような気がするけど、正直ほとんど覚えていないな」。人によってさまざまだと思います。

市は、令和2年(2020)2月に「心ひとつに！～手話でつながるまち・とよなか～」を基本理念に、「手話で人と人がつながる社会の実現」を目標に掲げた手話言語アクションプランを策定しました。

日常的に手話で話す人も手話に触れる機会があまりない人も、手話について考えてみませんか。(障害福祉課)



田村佳代子さん
(64歳、東泉丘)

聴覚障害があり、大人になってから手話を習得し、手話講習会の講師を務める

岡田 結婚を機に大阪で暮らすようになり、交友関係を広げるきっかけになればと軽い気持ちで手話の講習会に参加し、学び始めました。それが、思いのほか楽しくて。

田村 手話のどんなところに魅力を感じたのですか？

岡田 手話独自の文法があり、外国語を学ぶような感覚でした。難しさはありますが、自分の言いたいことを手話で相手に伝えることができたときの喜びが大きく、その奥深さに「もっと学びたい」という思いが強くなりました。

田村 「手話は手の動きだけで表現している」「聴覚障害者は相手の口の動きを見て話していることを読み取れる」と思われがちですが、手や口の動きだけではちゃんと伝わらないことも多いので、手の動き・表情・口の動きを合わせて表現することが大切です。例えば、雨・鈴・箸・橋のように口の動きだけでは区別できない言葉も、手の動きや表情があると、区別しやすくなります。

岡田 そうですね。口の動きや表情をつけることは、話すときに抑揚をつけることと同じで、内容が正確に伝わりますね。

知
っ
て
ほ
し
い

手話のこと

田村 10年ほど前から、手話講習会の講師を務めるようになりました。人に教えることは初めてで、試行錯誤しながら続けていますが、受講生が「楽しい」「分かりやすい」などと言ってくれ、熱心に通う姿を見ると、うれしく思います。慣れるまでは難しく感じるかもしれませんが、聴覚障害者の多くが使っている言語なので、覚えたい気持ちがあれば、きっと習得できると思います。

岡田 田村さんのように日常生活で手話を使っている方が講師をされている

相
手
に

寄り添う通訳



時折思い出話も交えながら、手話への思いを語ってくださいました

と、実際の表現をじかに学ぶことができます。自分の手話が本当に伝わるかどうか、その場で確認できるため、効率よく学べると思います。ネーティブスピーカーの先生に外国語を学ぶことと同じですね。

田村 聴覚障害者の講師はまだ少ないので、これから増えていくといいなと思っています。

岡田 私は講習の中で、「手話通訳者は聞こえない人の『耳』であれ」と教えられました。つまり、私が聞いた内容をそのまま伝え、聴覚障害のある人が言いたいことを感情も含めてもれなく伝えるということなんです。その上で、私は2つのことを守っています。それは、「守秘義務」と「対象者に寄り添うこと」です。

対象者はみんな状況が異なります。



手話講習会では、微妙なニュアンスの違いを実際に手話で話すなどして、学びを深めていきます



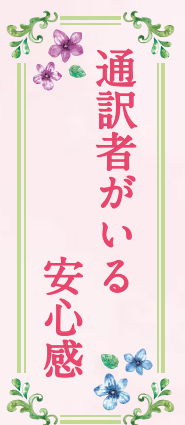
同じ内容を伝えるにしても、相手の年代などによって表現を変えて、対象者により分かりやすくなるように心掛けています。

田村 例えば病院などで医師の話を書く場面では、専門用語など難しい言葉は必要に応じて紙に書いてもらえると、分かりやすいです。理解できているか確認しながら通訳してもらえるととても心強いですね。

岡田 田村さんは、これまでに意思疎通がうまくいかなかったことはありましたか？

田村 ありますね。スーパーで落とし物をして、店員さんに届いていないか聞いたのですが、うまく伝わらず「ありません」と言われ、帰宅して母に問い合わせてもらったら届いていることが分かったことがありました。

視覚で情報を伝えられるファクスやメールが普及するまでは家の固定電話しか連絡手段がなく、知人と待ち合わせをするのも一苦勞でしたが、今は本当に便利になりました。



田村 昭和40年代ごろまでは、聴覚障害のある人は自動車免許を取ることができませんでした。取得できるようになって、喜んで教習所へ申し込みに行きましたが、なかなか受け入れてもらえず、困りました。今は手話通訳者がいる教習所もありますね。少しずつそんな場所が増えてはきていますが、それでも不便を感じることがないわけではありません。

岡田 どこへ行っても手話通訳者がいるのが理想ですね。そのためには、気軽に手話を学べる場がもっとあるということだと思います。みんなが手話で話せると安心ですね。

田村 「手話を覚えましょう」ということを、学校や公共施設などでもっと呼び掛けてもらえるといいなと思います。いろんな人が手話に触れ、手話が当たり前にある、そんな日常が来ればいいですね。



「手話でつながるまちとよなか」への第一歩は手話に触れることから

市は、手話言語アクションプランに基づき、手話への理解や普及を図るため、視覚的情報発信・啓発・意思疎通支援の3つを柱にさまざまな取り組みを進めています。

今年度から始めた新たな取り組みでは、視覚的情報発信の一環として、市が制作する一部の動画に手話通訳者の映像を入れています。少しでも多くの人に「手話を学びたい」「手話で話したい」と思ってもらえるように、まずは手話に触れるきっかけになればと思います。

手話に関する啓発イベント、一日で基礎が学べる入門講座や子ども向けの講座など、今後も皆さんが気軽に手話に触れることができる機会をつくっていきますので、ぜひご参加ください。



障害福祉課 課長補佐 宇都宮洋